

新型コロナウイルス感染症の急拡大に伴い、県内の正月・小正月行事が中止されているところもありましたが、上条では今年も無事8日にオコヤタテ、14日にどんど焼きが行われました。小正月行事は地域の大人から子供まで様々な世代が集まり、大切なコミュニケーションの場となっています。この貴重な伝統的な風景と伝統行事を大切に、次世代へ継承していきたいと心から思います。

オコヤタテ

1月8日(土)に上条集落の道祖神場にてオコヤタテが行われました。前日に準備をし、この日は朝8時から始まり、午後3時頃にオコヤが完成しました。組の方20名程で作業は本体や屋根、藁作り等、担当を分けて行き、手際よくオコヤが建てられていきました。今年も見事なオコヤが出来上がり、上条集落の皆さんの団結力を強く感じました!

集落外から駆けつけてくださった方や文化財課職員にオコヤタテの作業を丁寧に教えていただき、また一緒に地域の行事に参加させていただき、ありがとうございました。



【 金剛山福蔵院で年越し! 】

12月31日大晦日の夜、年が変わる元旦にかけて集落の皆さまの手によって、除夜の鐘がつけられました。強風が吹く寒い夜でしたが参加者の



方々へ甘酒が振る舞われ、ホッと温まりながら、清雲住職から新年のご挨拶をいただきました。

どんど焼き

1月14日(金)夕方6時から道祖神場にてどんど焼きが行われました。集落の皆さまが集まったところで、オコヤが解体され、火にくべられました。大きな音をたてて勢いよく火が燃え上がり、大迫力でした!!火が落ち着いたところで、各家で作った繭玉をかたちづくったお団子を焼き、火を囲みながら話を弾ませました。このお団子を食えると「虫歯にならない」「病気にならない」と言われています。

また、上条を活性化する会から昨年収穫したサツマイモを使って焼き芋が振る舞われました。どんど焼きの火で焼かれた焼き芋はアツアツでとても美味しかったです♪



今年も無事どんど焼きが開催できることに感謝するとともに、どんど焼きの大きな火に無病息災、新型コロナウイルス感染症の早期終息を願いました。



Vol. 5では道祖神祭りについて紹介しました。過去の「上条報告」はこちらからご覧ください♪

大和町野地区のどんど焼きと田野十二神楽

1月15日(土)に大和町野地区のどんど焼きと小正月行事「田野十二神楽(県指定無形民俗文化財)」が行われました。小正月行事を中止とするところが多いなか、演目の一部を縮小し、一般非公開にて厳かに行われました。

当日は祭り関係者や一般の方々が景德院境内にある道祖神場(御霊屋)に集まり、武田勝頼らの鎮魂を行った後、夕方の6時頃からどんど焼きが行われました。(※通常はどんど焼きの火の前で、獅子舞を執行し、続いて獅子頭を先頭に行列を組んで田野地区公民館に行き、田野十二神楽が演じます。)

「田野十二神楽」は、今から360年ほど前の江戸時代前期から始まったと伝えられています。県内の他の神楽と比べても珍しい特徴をもつ民俗芸能で、「十二神楽」の呼び名は、神楽の舞が十二段(獅子舞・幣束の舞・汐汲みの舞・菱組の舞・剣の舞・姫の舞・鬼の舞・鐘馗の舞・介者の舞・種蒔の舞・笹の舞・翁の舞)にわたって構成されているところから名付けられたものです。



■どんど焼き



■獅子舞



■姫の舞

～武田勝頼と田野十二神楽～

田野地区ではこの道祖神場を設置した寛政2年(1790)、この地で悲惨な最期を遂げた勝頼らの鎮魂のため十二神楽を舞います。段の神楽のうち、最初に演じられるのが獅子舞で、獅子は邪気を払い、祖霊を招く重要な役割を持つ神事舞であることから見ても、勝頼らの鎮魂に欠かせないものです。